

政務活動費活動報告（研修）

- (1) 研修名：第99回全国図書館大会 福岡大会
- (2) 参加者：夢みらい 赤井 康彦
- (3) 日時・場所：平成25年11月21日、22日

【1. 研修目的】

本市において北部に位置する場所に市立図書館があり、中南部地域の方々から拠点図書館の建設要望は多い。定住自立圏構想の中で拠点図書館の建設は、分科会でも検討されていて、この4月に市長選挙にて当選した市長の公約にも中央図書館の建設を明記されている。

こうしたわが市の現状の中、図書館が貸し出しだけの場所でなく、レファレンス機能の強化や学校への支援、子育て支援など地域の問題解決の「知の拠点」となるべく事例を学ぶ為、全国図書館大会に参加した。

【2. 結果報告】

(1) 内容

基調報告 各図書館の現状と国の振興施策への期待
(日本図書館協会理事長 森 茜氏)

分科会 図書館政策の動向とこれからの図書館経営
(慶應大学 糸賀 雅児氏)

発表1 まちを元氣にするわくわく図書館
(NPO法人オブセリズム 花井 祐一郎氏)

発表2 農業支援サービス－地域に根ざしたビジネス支援の形－
(小山市立中央図書館 大塚 由香利氏)

発表3 コミュニティーを育む舞台としての図書館
(奈良県立図書情報館 乾 聰一郎氏)

発表4 公立図書館の市民価値を高める
(武雄市教育文化・学習課 錦織 賢二氏)

(2) 考察

図書館は、問題解決の「知の拠点」という意識をわが市がもっと意識すべきであり、公民館は、地域の方々の固定客で成り立ち、図書館は、幅広い層のリピーターと考え事業を展開する必要がある。集客力を持った公共空間というメリットを活かすには、図書館をコミュニケーションの場と捉え、どんどんと外へ出る(事業を展開する)べきだと感じた。

各分科会の発表者は、図書館を「知のインキュベーション」や「交流と創造で楽しむ文化

拠点」、「相談施設」「好奇心をかたちにする文化メディア」「まちづくりの成長エンジン」とそれぞれ位置づけておられ、図書館の可能性を信じて行動している姿に光が見えました。わが市も拠点図書館について議論をされている現状であるが、今ある図書館においても今からでも出来ることがたくさんある事を学んだ研修となりました。